



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

みのる法律事務所便り
第390号
令和4年10月



いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 (125)

原発は 制御できぬ アトムなり

それでもやるか 懲りない面々



令和4(2022)年10月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

『塀の中の懲りない面々』[1986(昭和61)年、安部譲二著]という小説がありました。罪を犯し、刑務所に入れられた連中の話です。失敗して心に痛手を受け、「二度とやるまい」と思いながらも、塀の外に出たらまた同じような犯罪を繰り返す、塀の中に戻ってくるという連中の話です。

権力者の中には、懲りない面々が多く見られるように思えてならないのです。福島原発事故を体験し、原発の稼働には反対していたと思えた岸田首相は、権力の座に着いた途端に、それまでの原発に消極的な政治姿勢から「原発の再稼働、原発の新設・増設」等と原発推進という方向に原発政策を転換しました。

権力者を犯罪者と重ねることは躊躇しますが、「権力を持ってしまおうこうになってしまうのか」と残念でなりません。

プーチンの暴挙を見ていると、ヒトラーに限らず、権力者は懲りない面々となってしまうように思えて仕方ありません。岸田政権も軍事費の増額政策に走り出しました。権力者は、犯罪を繰り返す塀の中に戻る犯罪者ではありませんが、権力を持つと権力を振り回したくなるものであることは、塀の中の懲りない面々と似ていると思えてならず、こんな駄弁句を詠みました。

権力者の戦争を繰り返す姿は、犯罪の常習者より世の中に与える悪い影響は甚大です。そうさせないように、主権者である国民は、絶えず権力者の行動を監視し、やらせてはならないことは、早い段階で止めなければなりません。

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句 (126)

岸田さん 軽く見過ぎて いませんか
世論測れず 支持急落



令和4(2022)年9月28日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

岸田首相は、安倍元首相の国葬を閣議だけで決め、他の国会議員や野党議員の意見に耳を傾けず、半分以上の国民の反対にも拘わらず強行しました。安倍元首相を支持する保守層をつなぎ止めたいという思いで、自民党最大派閥の安倍派に気を遣ったのです。

結果は散々です。岸田内閣支持率は、7月11、12日は63.2%だったものが、9月17、18日には、40%を切りました。世界中で、日本国内は分裂状態となっているか如くに報道されました。

これは、岸田首相が国民を軽く見た結果です。国民を馬鹿にした結果です。国民だって馬鹿ばかりではありません。安倍元首相の行動にも、桜を見る会、モリカケ問題を始め、納得出来ないものも多く、9条改定など、到底受け入れられない政治思想も多く、私などは、その政治姿勢は最も許し難い存在の政治家でした。そのような考え方の国民も少なくはないのです。

岸田首相は、国民の方を見ないで、自民党内の最大派閥の安倍派の方を向いてしまい、このような散々な結果となりました。自業自得です。

岸田首相は、安倍政権の政策に批判的な国民も多くいたことをもう一度よく知り、何故そういう批判があったのかを検証し、今後の政策に活かしてほしいのです。

安倍元首相の国葬問題、原発政策の変更、軍事費の増額など、岸田内閣の政策は、安倍元首相の政策に似てきたように見えます。自民党内で安倍元首相派の応援を得たいとの思惑があるのでしょうか、もっと国民の考えに寄り添う政治をしてほしいものです。

岸田政権の政治姿勢は、

国民よりも安倍元首相の派閥に気を遣いすぎてはいませんか。



安倍元首相の憲法9条改定を目指す政治姿勢に対しては、「絶対反対」という考えでした。安倍元首相の「積極的平和主義」とか「集団的自衛権の行使は許される」とか、「原発の再稼働や新增設推進」という考え方にも反対でした。

岸田政権となり、安倍元首相のこのような政治姿勢は見直されるものと期待しました。国民の多くもそれを期待しました。ところが、前句の通り、7月11、12日時点では、内閣支持率は63.2%、内閣不支持率は20%位でした。しかるに9月17、18日時点では、内閣支持率は40%を切り、内閣不支持率が50%近くになっています。

岸田内閣の支持率がこんなに急落したのは何故でしょうか。岸田内閣は、国民の方を向いていないからです。参議院選で、与党である自民党・公明党が勝ち、「当分の間は、野党など問題ではなく、国民にも気遣いはいらぬ。与党内、特に自民党の議員の方に気遣いをしなければならぬ」と切り変えたからです。特に、自民党の最大派閥である安倍派に気を遣わなければならぬと、安倍派の方にだけ目を向けているからです。

安倍元首相の国葬を強行し、原発政策を「原発再稼働・新增設」という方向に変更し、軍事費の大幅増額など、安倍派に擦り寄っているからです。

安倍元首相の政策、政権運営、公私混同とも思われる行動に対しては、納得出来ない国民も多くいたのです。数を頼んでの横暴とも思えるやり方には、批判的な国民も多くいたのです。

その中でも「憲法9条改定」という政治姿勢に対しては、「絶対反対」という国民は多かったのです。岸田政権は、国民の考え方は知っていたので、選挙までは、安倍派よりも国民の方を向いた対応をしていましたが、選挙後は手の平を返して、自民党内で足を引っ張られないようにと安倍派の方を向いているのです。

岸田内閣の政治姿勢について、これまで気になる都度、駄文を書いてきました。今回は、これを冊子にまとめてみることにしました。既に地方紙に投稿し、紹介されたものもあります。この事務所便りで述べたものもあります。それらも含めて、冊子にまとめてみました。本号の別冊として同封します。斜め読みでもして下さい。

どれも思い付いたときに、その場で10分位でまとめたもので、熟慮はしていません。瞬間的に思い付いたものをメモした程度のもので、さすが、読み直してみますと、言いたい気持ちは述べているような気がします。

安倍元首相の政治姿勢については、国葬に値するという国民もいるでしょうが、そうは思わない人もいるでしょう。さらには、批判的な目で見ている人もいると思います。そこは人夫々の考え方です。どう考えるかは、「思想・良心の自由」です。

それにもかかわらず、安倍元首相の政治姿勢や行動を、国家全体で讃えるような国葬は、安倍元首相の政治姿勢に対して賛同できない国民、特にも「憲法9条改定」、「積極的平和主義」、「集団的自衛権の行使は合憲」、「軍事費増額」などという考え方に真っ向から反対する国民にとっては、安倍元首相の政治姿勢を讃えることなどできません。

令和4(2022)年9月30日の朝日新聞の「天声人語」欄には、「なぜ国内で抗議行動をしないのか。そんな問いにロシアのジャーナリストが米紙で答えていた。『実際は多くの人々が抗議し、拘束されている。独裁国家で暮らした経験のない人には想像もできない勇気のいる行為だ』。戦争反対のひとつが言えない社会がある」との記載がある。

安倍元首相の政治姿勢の中には、数を頼んで、自民党独裁という危険の陰が見られ、とても賛同する気にはなれませんでした。安倍元首相には、独裁政治を目指す輩から利用されやすい体質も感じました。

岸田政権が誕生し、丸1年が経ちました。安倍元首相の政治姿勢が改善されるのではないかといくらか期待しました。しかし前記の通り、安倍元首相の国葬には、半数以上の国民は反対したのです。賛同したのは、30%程度です。このような世論調査の結果も無視した岸田政権は、「国民の方を向いていない」と言わなければなりません。

選挙で勝ったことで野党の存在を無視し、自民党内の派閥の力関係だけを気にしているのです。



国民の方を向かなくなった政権は危険です。ロシアのプーチン政権のようになつたら、大変なことになります。そのようにならないように、政権担当者の動向は、普段から監視し、危うい芽が出たらすぐに摘み取らなければなりません。

国民主権国家の主権者である国民は、賢くしなければなりません。いっしょに、勉強しましょう。